ONKYO

リビングスピーカーシステム

LS3100

サウンドシステムコントローラー (LAP-301)
フロントスピーカー (SLM-301)
ワイヤレスサブウーファー (SLW-301)

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

はじめに 2

接続する 14

操作する 17

テレビのリモコンで
本機を操作する 21

付録 22

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告 誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠注意 誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 壁掛け／据え置き以外の設置をしない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんのような柔らかいものの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

水濡れ禁止

電源コード/ACアダプタ・電源プラグに関するご注意

■ 電源コード/ACアダプタを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

■ ACアダプタに布や布団をかぶせない

禁止

熱がこもり火災の原因となります。

⚠警告

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 心臓ペースメーカーを装着されている場合は、本機を使用しない

禁止

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える原因となります。

■ 病院などの医療機関内、医療用機器の近くや、車の中では本機を使用しない

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■ 他の機器に電波障害などが発生した場合、本機の使用を中止する

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■ 長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■ 電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示(プラスとマイナスの向き)に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

■ ボタン電池は、小さなお子様の手の届かないところへ置く、飲み込まないよう、細心の注意を払う

必ずする

小さなお子様が誤って飲み込むと大変危険です。お子様の手の届かない所へ保管してください。万一飲み込んだ可能性がある場合、大至急医師に相談してください。飲み込んだまま放置した場合、消化管の壁に潰瘍を作ってしまうなど、重篤な症状を引き起こしたり、場合によっては死亡する可能性があります。
電池収納部がしっかり閉まらない場合、製品の使用を中止し、子供の手の届かないところに保管してください。

⚠注意

銘板の位置

銘板は製品底部にあります。
電源定格等の確認は銘板部の記載を確認してください。

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

注意

本機を壁に取り付けるときは、壁の材質、また、桟などの位置に注意してください。
(ネジの保持強度に大きな差が出ますので販売店にご相談ください)

■ 本機の上にものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
また、本機に乗ったりぶら下がったりしないでください。
誤作動の原因となります。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

⚠注意

電源コード/ACアダプタ・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

■ 電源を完全に遮断するには、電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグを抜き差ししやすい場所に本機を設置してください。

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■ キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったりデータが消失することがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。
グリルネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

電池に関するご注意

■ リチウム電池を破棄する場合は絶縁処理をする

必ずする

プラス、マイナス端子に絶縁テープを貼るなどして、自治体の指示に従って破棄してください。

電波に関するご注意

本機を使用する周波数帯(2.4GHz)では、電子レンジや産業・科学・医療用機器のほか、免許を要する工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の機内無線局、免許を要しない特定小電力無線局や免許を要するアマチュア無線局などが運用されています。他の機器との干渉を防止するために、以下の点に十分ご注意いただきご使用ください。

- 本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合、速やかに使用を停止してください。混信回避のための処置等については、オーディオコールセンター（本書に記載）へご相談ください。
- その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、オーディオコールセンター（本書に記載）へお問い合せください。

2.4: 2.4GHz帯を使用する無線機器です。
FH: FH-SS変調方式を表します。

すべてのBluetooth機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。
本機とBluetooth対応機器との互換性については、各Bluetooth対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、または販売店にお問い合わせください。一部の国では、Bluetooth対応機器の使用が制限されている場合があります。Bluetooth対応機器の使用については、お住まいの各自治体にお問合せください。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

製品の取り扱いについて

設置について

・本製品のサブウーファーは、キャビネット（外箱）に木材を使用しています。直射日光が当たる場所、エアコンや加湿器の近く、お風呂場やキッチンの中など、気温や湿度が高くなる場所には置かないでください。
・スピーカーの近くに水やその他の液体を置かないでください。製品に水滴や液体が入った場合、故障の原因となります。
・不安定な場所や振動する場所には設置しないでください。製品が落下したり倒れたりして、故障の原因となります。
・本製品のサブウーファーは縦置き専用です。横向きに設置したり斜めに傾けたりしないでください。
・本製品の近くでレコードプレーヤーやCDプレーヤーなどを使用すると、干渉して異音が生じることがあります。その場合は、レコードプレーヤーやCDプレーヤーを本製品から遠ざけるか、音量を下げてお使いください。

ブラウン管テレビとの近隣使用について

付属のスピーカーは非防磁仕様です。ブラウン管テレビを本製品の近くで使用すると、映像に色むらや歪みが生じる場合があります。その場合は、スピーカーをテレビから遠ざけてください。

入力信号に関するご注意

付属のスピーカーは通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が入力されると過大電流による焼損断線事故のおそれがありますので十分にご注意ください。

1. FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
2. テープレコーダーを早送りしたときの音
3. 発振器や電子楽器などの高い周波数成分の音
4. アンプ（増幅器）による振動音
5. オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
6. 各端子にケーブルを抜き差しする際のショック音（あらかじめアンプの電源を切ってください）
7. マイク使用時の共鳴音

箱の中身を確かめる

製品本体および下記の付属品が入っているかご確認ください。

サウンドシステムコントローラー（LAP-301）
リモコン（RC-858S）
AC アダプタ、電源コード（→P.16）
ステレオミニプラグケーブル（1.5m）
光デジタル音声ケーブル（1.5m）
フロントスピーカー（SLM-301）
スピーカースタンド× 2
スピーカーコード（3m）× 2
スペーサー（薄）（フロントスピーカー、サブウーファー用）× 12
スペーサー（厚）× 8
落下防止用ワイヤー× 2
ワイヤレスサブウーファー（SLW-301）
電源コード（→P.16）
取扱説明書（本書）
クイックガイド
保証書

* カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。

主な特長

サウンドシステムコントローラー

- パワフルなデジタルアンプ
- 22W/ch（4Ω、1kHz、0.8%、1ch駆動時、JEITA）
- 2系統のデジタル入力端子（光/同軸）
- アナログ入力端子（ミニ端子）
- ドルビーデジタル、AACデコーダー搭載
- ワイドなサラウンド音声を楽しめるノーマルモード
- セリフが聞きとりやすいボーカルモード（ニュース番組用）
- Bluetooth ver.2.1+EDR（Enhanced Data Rate）
- オートスタンバイ機能
- オートパワーオン機能
- 他社製テレビのリモコンコードをプリセット

サブウーファー

- 設置場所を選ばないパワフルなワイヤレスサブウーファー
- アクティブ（アンプ内蔵）・バスレフ型
- 16cmコーンウーファー

フロントスピーカー

- 取り外し可能なスピーカースタンド付属
- 6.5cmフルレンジコーン×2

DTSの特許については、http://patents.dts.com をご参照ください。
DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。
DTS、シンボル、およびDTSとシンボルの組み合わせはDTS社の登録商標です。
また、DTS Studio SoundはDTS社の商標です。
©DTS, Inc. All Rights Reserved.

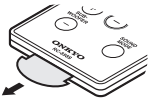
ドルビーラボラトリーズからのライセンスに基づき製造されています。Dolby（ドルビー）およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、オンキヨー株式会社 はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

その他の安全情報については、製品の底面または後面にあるラベルをご確認ください。

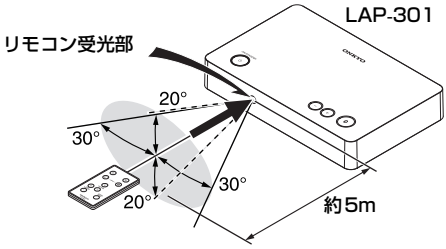
AAC ロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。

■ リモコンの使いかた

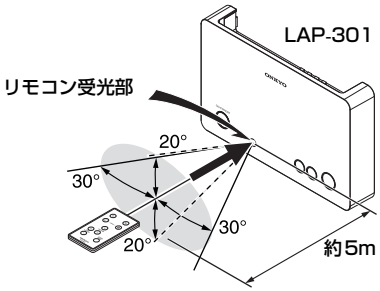


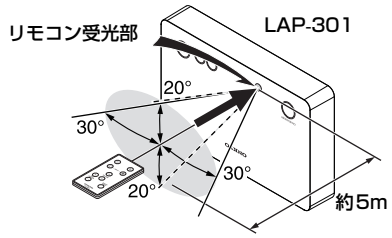
リモコンを使用する前に電池の絶縁シートを引き抜いてください。
リモコンは、以下のように本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

（床などに設置する場合）



（壁に設置する場合）

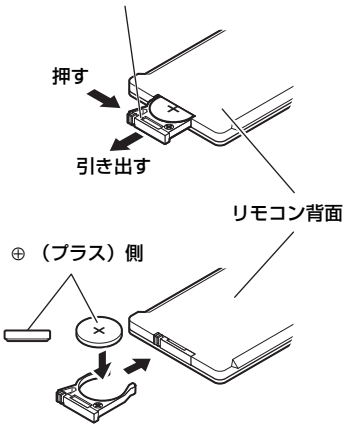




■ 電池交換のしかた

電池は同じ型番のもの（CR2025）をご使用ください。

図のように矢印の方向に押しながら、電池ホルダーを引き出す



ご注意

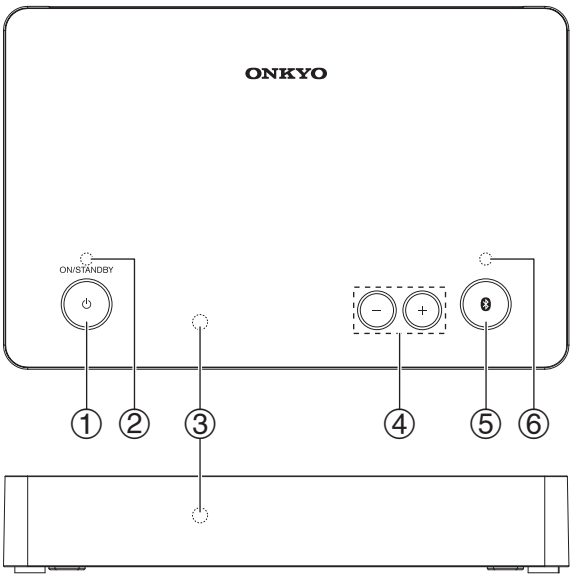
- リモコンの反応が悪くなった場合は、電池を交換してください。
- 液漏れや汚損を防ぐため、長期間リモコンを使用しない場合は、電池をはずしておいてください。
- 液漏れや汚損を防ぐため、使い切った電池はできるだけ早く取りはずしてください。

警告

- 間違った電池を使用すると破裂の危険があります。同じ型番または同等の電池を使用してください。

各部の名前

上面パネル（LAP-301）



（ ）内のページに主な説明があります。

① ⏻ **ON/STANDBY**ボタン（17）

② **ON/STANDBY** LED（17）

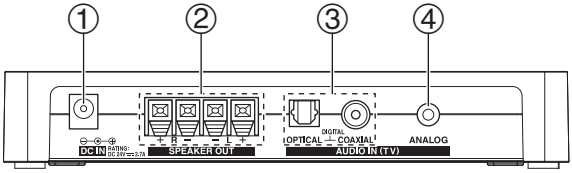
③ リモコン受光部（8）

④ 音量－/＋ボタン（17）

⑤ **ᛒ**/テレビ入力切換ボタン（17）

⑥ Bluetooth LED（17）

後面パネル（LAP-301）



① **DC IN端子**

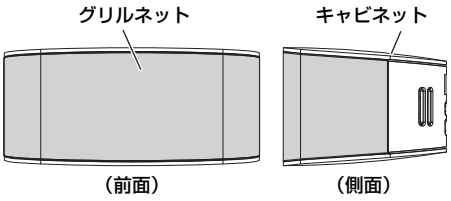
② **SPEAKER OUT端子**

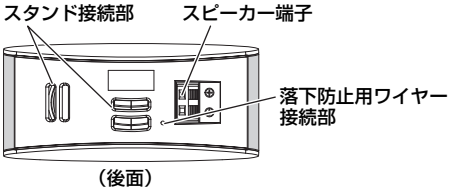
③ **AUDIO IN（TV）DIGITAL OPTICAL/COAXIAL端子**

④ **AUDIO IN（TV）ANALOG端子**

接続について詳しくは「接続する」を参照してください（→14～16ページ）

フロントスピーカー（SLM-301）

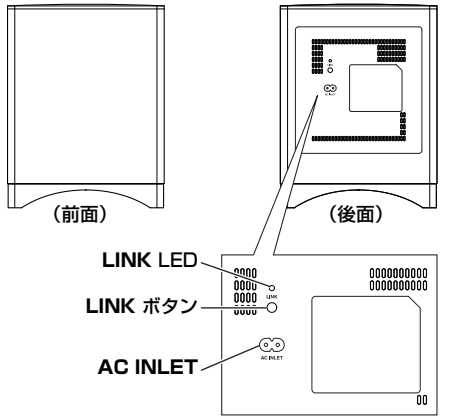




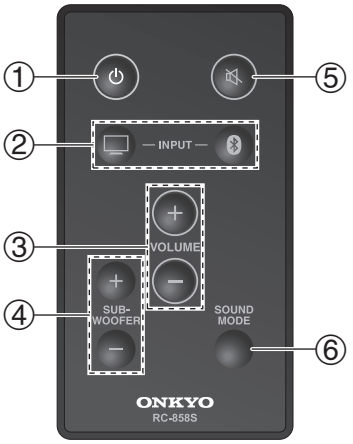
警告

・前面のグリルネットを取り外すことはできません。無理に取り外そうとすると破損の原因になりますのでご注意ください。

サブウーファー（SLW-301）



リモコン



（ ）内のページに主な説明があります。

① ⏻（電源）ボタン（17）

② ▭/ **INPUT**ボタン（17）

③ **VOLUME**＋/－ボタン（17）

④ **SUBWOOFER**＋/－ボタン（17）

⑤ 🔇（消音）ボタン（18）

⑥ **SOUND MODE**ボタン（19）

テレビのリモコンで操作する

コントローラーには、いくつかのテレビメーカーのリモコンコードがあらかじめ登録されています。これにより、テレビのリモコンを使ってコントローラーの音量調節や消音を行うことができます。

ヒント

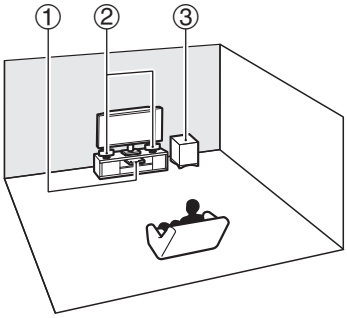
・一部のテレビリモコンは、この機能に対応していません。その場合は、コントローラーのリモコンを使って操作するか、テレビリモコンでコントローラーを操作できるようコントローラーにリモコンコードを登録してください。詳しくは「テレビのリモコンで本機を操作する」を参照してください（→P.21）

・テレビのリモコンでコントローラーを操作する場合は、コントローラーのオートパワーオン機能を有効にしてください。テレビリモコンの電源ボタンでコントローラーの電源を入れることはできません。

設置する

本章では、コントローラー、フロントスピーカー、サブウーファーの設置について説明します。

本書では、サウンドシステムコントローラー（LAP-301）を「コントローラー」と表記します。



①サウンドシステムコントローラー（LAP-301）
②フロントスピーカー（SLM-301）
③サブウーファー（SLW-301）

コントローラーを設置する

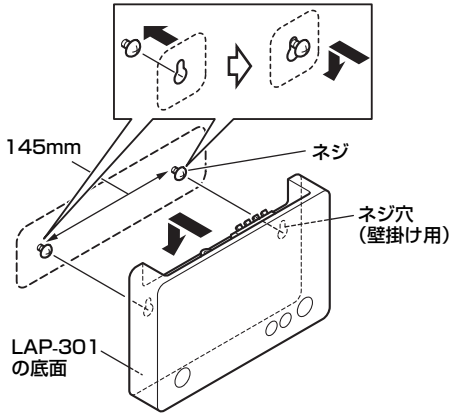
コントローラーはたいらな面に置くか、市販のネジを使って壁に取り付けます。

■壁に取り付ける

1 **壁掛けテンプレート（→P.27）を使って、壁のネジ位置に目印を付ける。**
コントローラーを水平に取り付けるには、鉛筆を使って2か所のネジ位置に目印を付けます。

2 **目印の位置に市販のネジを取り付ける。**

3 **コントローラー底面のネジ穴を、ネジ頭にしっかりと掛ける。**
ネジ頭がネジ穴の上端にしっかりと掛かっていることを確認します。

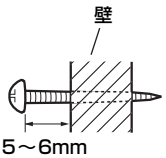


ヒント

・コントローラーは上下どちらの向きでも取り付け可能です。

ご注意

・コントローラー壁掛け用のネジは、頭部の直径が6mm～7mm、ネジ山部の直径が3～4mmのものを使用してください。指定サイズの範囲内でなるべく太くて長いものを使用することをおすすめします。



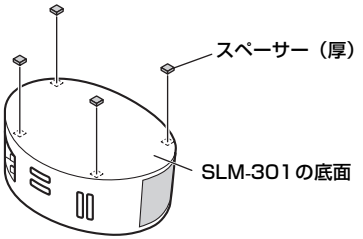
・図のように、ネジ頭と壁のあいだに5～6mmの間隔をあけてください（取り付け専門業者に相談することをおすすめします）。
・コントローラーはできるだけテレビの近くに設置してください。ただし、テレビのリモコン受光部が隠れないように注意してください。
・コントローラーは通気のよい場所に設置してください。
・2.4GHz周波数帯を使用する機器（無線LAN機器、電子レンジ、コードレス電話など）を使用している場合、それらの機器からの干渉により本機を正しく操作できない場合があります。そのような場合は、本機をそれらの機器から遠ざけてください。

フロントスピーカーを設置する

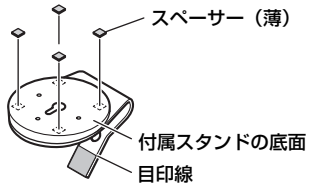
■スペーサーを貼り付ける

より良い音でお楽しみいただくために、付属のスペーサーを使用することをおすすめします。
スペーサーはスピーカー底面の4箇所に貼り付けることで、すべりにくく安定して設置することができます。

（置いて使用する場合）



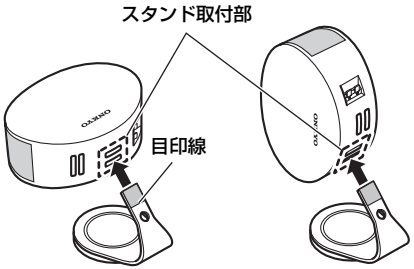
（付属スタンドを使用する場合）



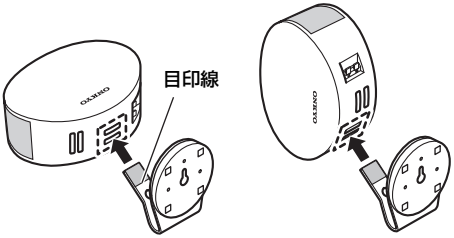
■付属スタンドを取り付ける

フロントスピーカー背面のスタンド取付部に、付属のスタンドの差込部分を真っ直ぐ差し込んでください。
スタンドを取り外すときは、スタンドをスピーカーから引き抜いてください。

（置いて使用する場合）

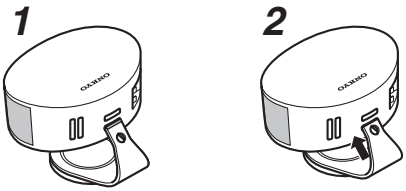


（壁に掛けて使用する場合）



ご注意

・スタンドの差込部の目印線がかくれるまで真っ直ぐに差し込んでください。
スピーカーは水平な場所に真っ直ぐ立てて置いてください。



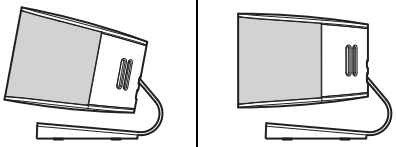
ヒント

・フロントスピーカーは縦（垂直）/横（水平）どちらの向きでも設置可能です。

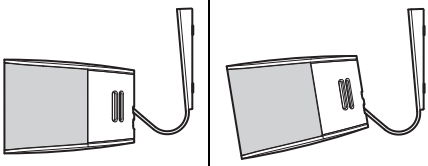
■角度を調節する

フロントスピーカー背面の取付部を変えることにより、2通りの角度で使用することができます。

（上側のスタンド取付部）　（下側のスタンド取付部）



置いて使用する場合



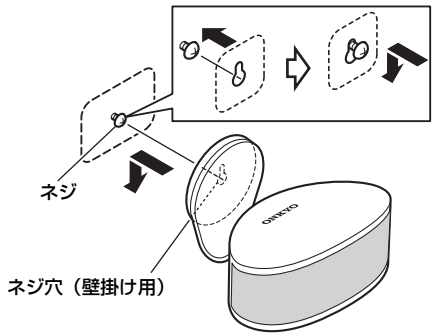
壁に掛けて使用する場合

■壁に掛けて使用する

1 **「スタンドを取り付ける（壁に取り付ける場合）」の図にしたがって、付属のスタンドを取り付ける。**

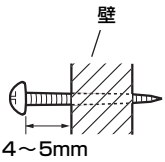
2 **スピーカースタンドを取り付けたい壁の位置に市販のネジをねじ込み固定する。**

3 **スタンド底部中央のネジ差し込み穴を壁に取り付けたネジに差し込み、スタンドを下方向に下げ固定する。**
ネジ頭がネジ穴の上端にしっかりと掛かっていることを確認します。



ご注意

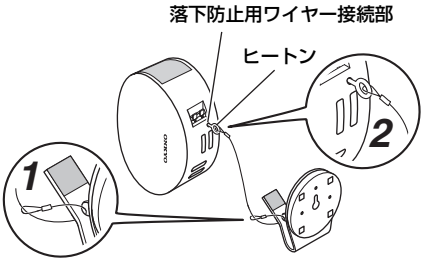
- 壁に掛けて使用する場合、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、また桟（さん）などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分注意してください。
- フロントスピーカー壁掛け用のネジは、頭部の直径が7mm～9mm、ネジ山部の直径が3～4mmのものを使用してください。指定サイズの範囲内でなるべく太くて長いものを使用することをおすすめします。



- 図のように、ネジ頭と壁のあいだに4～5mmの間隔をあけてください。
- 垂直の壁に取り付けてください。傾斜している面に取り付けると、スタンドが外れスピーカーが落下するおそれがあります。
- コントローラー、スピーカーを天井に取り付けないでください。

■落下防止用ワイヤーを使用する

スピーカーを壁に取り付ける場合は、落下することのないようしっかりと固定されているか確認してください。小さなお子様がいる場合など、特に注意してください。
付属の落下防止用ワイヤーをスタンドの穴とワイヤーの結び目に通します。スピーカー後面の落下防止用ワイヤー接続部にワイヤーのヒートンをねじ込みます。



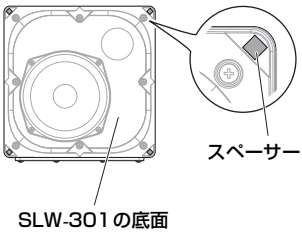
ご注意

- 壁の素材や支柱の位置などにより、ネジの固定強度が変わります。（取り付け専門業者に相談することをおすすめします）。

サブウーファーを設置する

■スペーサーを貼り付ける

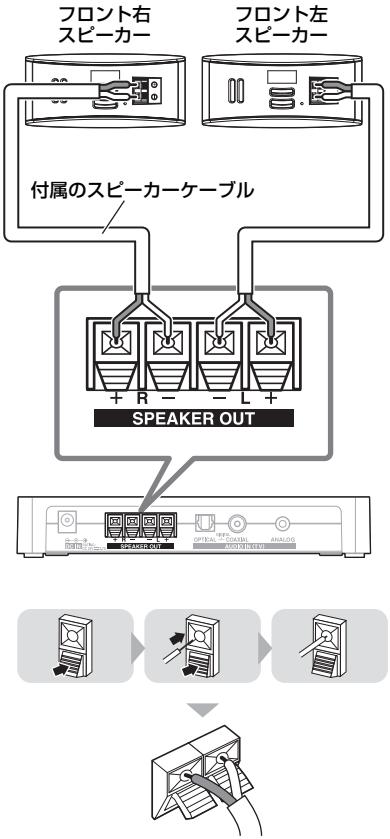
より良い音でお楽しみいただくために、付属のスペーサーを使用することをおすすめします。
スペーサーはサブウーファー底面の4箇所に貼り付けることで、すべりにくく安定して設置することができます。



接続する

フロントスピーカーを接続する

付属のフロントスピーカーを接続します。フロントスピーカーのプラス（+）端子をコントローラー（LAP-301）のプラス（+）端子にし、フロントスピーカーのマイナス（−）端子をコントローラーのマイナス（−）端子に接続します。



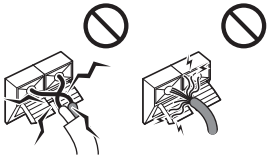
ヒント

- フロントスピーカーは2台とも同じ仕様です。どちらを左または右に使っても音質は変わりません。

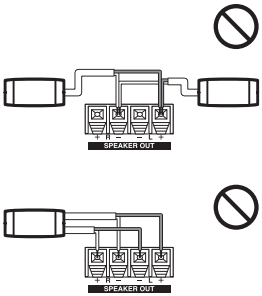
スピーカー接続に関するご注意

スピーカーを接続する前に、以下のご注意をお読みください。

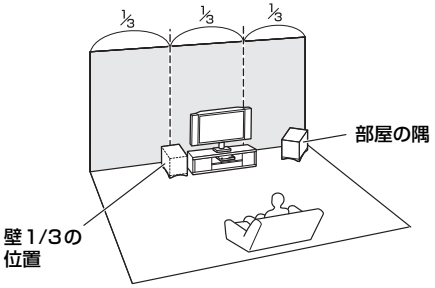
- 4〜8Ωのスピーカーをお使いください。
- スピーカーを接続する前に、電源コードをコンセントから外してください。
- スピーカーの接続には極性（プラスとマイナス）があります。必ずプラス（+）端子どうし、マイナス（−）端子どうしを接続してください。誤って接続すると、位相が不一致になったり不自然な音が出力されたりすることがあります。
- スピーカーケーブルのプラス（+）とマイナス（−）のワイヤーが接触しないように注意してください。コントローラーが故障する原因となります。
- スピーカーケーブルのワイヤー（金属部）がコントローラーの後面に接触しないように注意してください。コントローラーが故障する原因となります。



- 各スピーカー端子に複数のケーブルを接続しないでください。コントローラーが故障する原因となります。
- 1つのスピーカーを別のスピーカー端子に接続しないでください。



サブウーファーを使用する



サブウーファーの設置場所には特に決まりがありません。映画や音楽を視聴中に、サブウーファーを移動してみて、もっとも好みの低音が得られる位置に置いてください。

テレビの接続について

- テレビを接続する前に、テレビに付属している取扱説明書をお読みください。
- テレビの接続が完了し確認が終わるまで、電源コードを接続しないでください。
- 各ケーブルのプラグはしっかりと端子に接続してください（正しく接続されていないとノイズ発生や故障の原因となります）。
- 信号の干渉を避けるため、音声ケーブルは電源コードやスピーカーケーブルから遠ざけてください。

ケーブルと端子

■光デジタル音声

光デジタル接続では、デジタル音声（PCM、Dolby DigitalやAAC）を楽しむことができます。
音質は同軸デジタルと同等です。

■同軸デジタル音声

同軸デジタル接続では、デジタル音声（PCM、Dolby DigitalやAAC）を楽しむことができます。
音質は光デジタルと同等です。

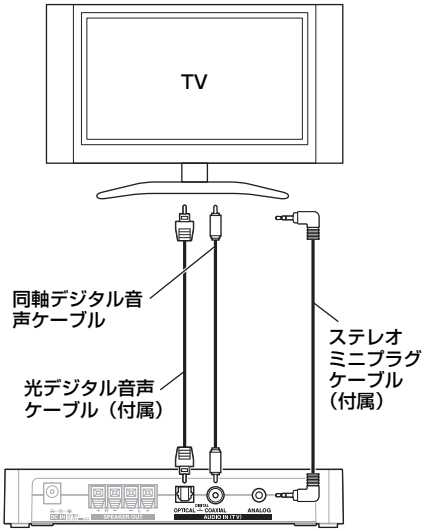
■3.5mmステレオミニプラグ

アナログ音声を伝送します。

ご注意

- コントローラーの光デジタル端子にはシャッター式カバーが備わっています。光デジタルケーブルのプラグを差し込むと自動的にカバーが開き、プラグを取り外すとカバーが閉じます。接続するときはプラグを奥まで差し込んでください。
- 光デジタルケーブルのプラグを抜き差しするときは、プラグをまっすぐに持ってください。斜めに抜き差しすると、シャッター式カバーが破損する原因となります。

テレビに接続する



テレビをコントローラーのいずれかの端子に接続します。

ヒント

Dolby Digital信号が入力されたとき、**ON/STANDBY** LED（白と橙）が3回交互に点滅します。

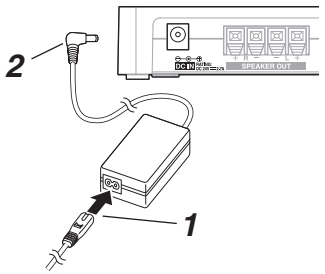
ご注意

- 2種類以上の端子を同時に接続しないでください。
- テレビとLS3100の両方から音声が出力される場合は、テレビ側の設定でテレビスピーカーの音声出力を無効にしてください。

ACアダプタ/電源コードを接続する

(LAP-301)

1 **付属のACアダプタと電源コードを接続する。**



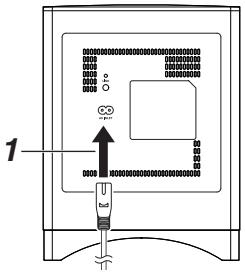
3 コンセントに接続

2 **AC アダプタを DC IN に接続する。**

3 **電源コードのプラグをコンセントに接続する。**

(SLW-301)

1 **付属のサブウーファー用電源コードを AC INLET に接続する。**



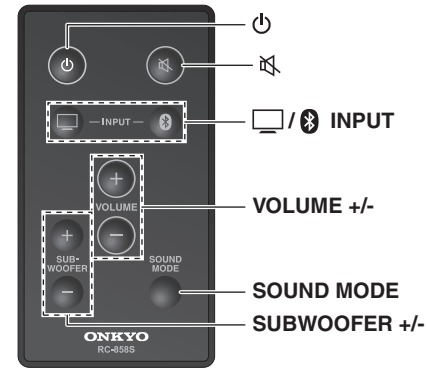
2 コンセントに接続

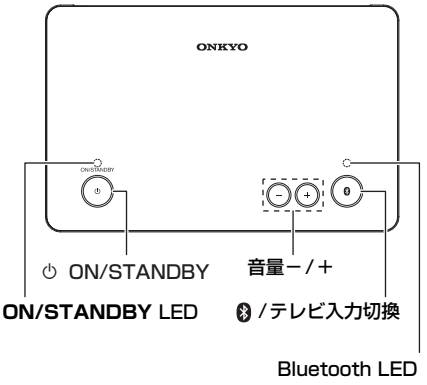
2 **電源コードのプラグをコンセントに接続する。**

ご注意

- **ACアダプタ/電源コードを接続する前に、スピーカーやテレビをすべて接続してください。**
- 本機の電源を入れると、電圧の変化などにより同じ系統のコンセントに接続されている別の機器と干渉することがあります。その場合は別系統のコンセントに接続してください。
- 付属のACアダプタ/電源コード以外は使用しないでください。また、付属のACアダプタ/電源コードをほか機器に使用しないでください。
- ACアダプタ/電源コードのプラグをコンセントに差したまま本体側を外さないでください。感電するおそれがあります。必ずコンセント側の電源プラグを先に取り外してください。

操作する





コントローラーの電源を入れる

1 **本体上面パネルの⏻ ON/STANDBYボタンを押す。**
または

リモコンの⏻ボタンを押す。
コントローラーの電源が入り、**ON/STANDBY** LEDが白色に点灯します。

もう一度⏻ **ON/STANDBY**ボタンまたは⏻ボタンを押すと、コントローラーがスタンバイ状態になります。

ヒント

- 電源制御について詳しくは、「オートパワーオン機能を設定する」(→**P.18**)を参照してください。

ご注意

- 電源を切る前に必ず音量を下げてください。大音量のまま電源を切ると、次回電源を入れたときにいきなり大音量が出力されます。

音声を楽しむ

■リモコンで操作する

1 **テレビの電源を入れる。**

2 **INPUTボタンを押して、テレビ入力を選ぶ。**
- 「Bluetooth対応機器の曲を再生する」(→**P.20**)も参照してください。

3 **VOLUME＋/－ボタンで音量を調節する。**

4 **サウンドモードを選ぶ。**
- 「サウンドモードを選ぶ」(→**P.19**)も参照してください。

■コントローラー本体で操作する

1 **テレビの電源を入れる。**

2 **/テレビ入力切換ボタンを繰り返し押して、テレビ入力を選ぶ（Bluetooth LEDが消灯している状態にする）。**

3 **音量－/＋ボタンで音量を調節する。**

ヒント

- 音量は0～35の範囲（1単位ずつ）で調節できます。
- リモコンの信号を受信すると、**ON/STANDBY** LEDが点滅します。
- オートパワーオン機能が有効になっている場合、コントローラーにテレビ音声が入力されると、自動的にコントローラーの電源が入り、テレビ入力が選択されます。

サブウーファーの音量を調節する

1 **リモコンのSUBWOOFER＋/－ボタンを押す。**

入力ソースを聴きながら、サブウーファーの音量を調節できます。音量は－10～10の範囲（1単位ずつ）で調節できます。初期状態では0に設定されています。

コントローラーを消音する

コントローラーを一時的に消音します。

■リモコンで操作する

1 **🔇 ボタンを押す。**
コントローラーの消音が有効になり、**ON/STANDBY** LEDが白色に点滅します。

■コントローラー本体で操作する

1 **上面パネルの音量－/＋ボタンを同時に押し続ける。**

テレビリモコンの消音ボタンを押すと、コントローラーとテレビの両方を消音します。もう一度テレビリモコンの消音ボタンを3秒間押し続けると、コントローラーの設定が切り替わります。コントローラーとテレビの有効/無効が異なる場合は、この方法でコントローラーの設定を切り替えて、テレビの設定とあわせてください。

ヒント

- 消音を解除するには、リモコンの🔇ボタンをもう一度押すか、上面パネルの音量－/＋ボタンを同時に押します。または音量を調節します。
- コントローラーをスタンバイ状態にすると、自動的に消音が解除されます。

オートパワーオン機能を設定する

お買い上げ時はオートパワーオン機能が有効になっているため、コントローラーにテレビ音声が入力されると、自動的にコントローラーの電源が入り、テレビ入力が選択されます。

1 **コントローラーの電源を切る。**

2 **上面パネルの⏻ ON/STANDBYボタンを3秒間押し続ける。**
コントローラーの有効/無効が切り換わり、**ON/STANDBY** LEDが橙色に点滅します。

有効の場合：2回
無効の場合：1回

テレビリモコンでコントローラーを操作する場合は、オートパワーオン機能を有効にしてください。テレビリモコンの電源ボタンでコントローラーの電源を入れることはできません。

ご注意

- テレビの電源に連動してコントローラーの電源が入らないようにするには、オートパワーオン機能を無効にしてください。

オートスタンバイ機能について

お買い上げ時はオートスタンバイ機能が有効になっているため、音声の入力がなく、本機の操作を何もしない状態が一定の時間続くと、自動的に電源がスタンバイ状態になります。接続しているケーブルや入力ソースにより、スタンバイ状態になる時間が以下のように異なります。

- オーディオ光デジタルケーブルまたは同軸ケーブルで接続：2 時間（テレビの電源がオフの場合は5分）
- ステレオミニケーブルで接続：5 分
- Bluetooth：5 分

この機能を無効にするには、電源オンの状態で本体の ⏻ **ON/STANDBY**ボタンとBluetooth/テレビ入力切換ボタンを同時に3秒間長押しします。無効に設定されると、**ON/STANDBY** LED（白色）が 1 回点滅します。

- 手順を繰り返すたびに有効/ 無効が切り換わります。有効に設定されると、2 回点滅します。

サウンドモードを使う

サウンドモードを選ぶ

サウンドモードを選ぶには、リモコンを操作します。

SOUND MODEボタン
このボタンを押すと、ノーマルモードとボーカルモードが切り替わります。ノーマルモードを選ぶと、**ON/STANDBY** LEDが白色に1回点滅します。ボーカルモードを選ぶと、**ON/STANDBY** LEDが白色に2回点滅します。

サウンドモード	説　明
ノーマルモード	深みがあり豊かな低音、歯切れの良いクリアな高音でダイナミックな 3D サウンドを楽しめます。
ボーカルモード	人の声を明瞭に再生します。ニュースやドキュメンタリー番組視聴時に最適です。

ヒント

- サウンドモードは、テレビ入力とBluetooth入力を個別に設定できます。

音声多重番組の音声を切り換える

音声信号がDolby Digital またはAAC のときのみ設定できます。リモコンのSOUND MODE ボタンを約 3 秒間、長押しします。長押しするたびに、以下の順で切り換わります。

主音声：**ON/STANDBY** LED（白色）が1回点滅します。
副音声：**ON/STANDBY** LED（白色）が2回点滅します。
主音声＋副音声：**ON/STANDBY** LED（白色）が3 回点滅します。

Bluetooth対応機器の曲を再生する

ご注意

- コントローラーでBluetooth対応機器の音声を再生するには、お使いの機器がA2DPプロトコルに対応している必要があります。

1 上面パネルの/テレビ入力切換ボタンを繰り返し押すか、リモコンのINPUTボタンを押して、Bluetooth入力を選ぶ（Bluetooth LEDが点灯している状態にする）。

コントローラーが前回接続したBluetooth対応機器を検出します。該当機器が見つからない場合は、5秒後にペアリングモードに切り替わります。

ご注意

- ペアリングモード中に、上面パネルの/テレビ入力切換ボタンまたはリモコンの**INPUT**ボタンをもう一度押してテレビ入力を選ぶと、ペアリングモードが終了します。

2 Bluetooth LEDが速く点滅している間に、コントローラーから10m以内でBluetooth対応機器のペアリング操作を行う。

ペアリングモードは25秒で解除されます。解除されるとLEDの点滅が遅くなります。
Bluetooth接続については詳しくは、お使いのBluetooth対応機器の取扱説明書を参照してください。
コントローラーから10m以内で操作しても環境によっては正しく動作しない場合があります。そのような場合はさらに近づけて操作してください。

3 コントローラーが検出されて、Bluetooth対応機器の画面に「Onkyo LS3100」と表示されたら、「Onkyo LS3100」を選ぶ。パスワード（PINコード）が必要な場合は「0000」を入力する。

Bluetooth接続が確立されると、Bluetooth LEDが2回点滅し、その後LEDは点灯します。

4 Bluetooth対応機器で再生を始める。

コントローラーからBluetooth対応機器の再生音が出力されます。

ヒント

- Bluetooth入力が選ばれている状態で、上面パネルの/テレビ入力切換ボタンまたはリモコンの**INPUT**ボタンを3秒間押し続けると、現在のBluetooth接続が終了し、ペアリングが始まります。

ご注意

- ペアリングが完了しているのにコントローラーから音声が出力されない場合は、Bluetooth対応機器の取扱説明書を参照し、音声出力先として「Onkyo LS3100」を選んでください。
- コントローラーには、Bluetooth対応機器16台分のペアリング情報を登録できます。17台目の機器がペアリングされた場合、古い順にペアリング情報が消去されます。
- Bluetooth対応機器によっては、接続時に毎回ペアリングが必要になる場合があります。
- 複数のBluetooth対応機器と同時に接続することはできません。

テレビのリモコンで本機を操作する

プリプログラム機能について

本機は、お手持ちのテレビのリモコンを使って、本機を操作できるようにあらかじめプログラミングされています。操作できる機能は音量調節と消音（＊）です。お持ちのテレビのリモコンでこの操作ができない場合や、その他の機能を使用したい場合は、次項のラーニング機能をお使いください。

この機能を解除するには、本体の ⏻ **ON/STANDBY** を押しながら、⊖を約3 秒間長押しします。テレビリモコン操作有効時、**ON/STANDBY** LEDが白色に1回点滅します。無効時は、2回点滅します。再度テレビのリモコンを使えるようにするには、同じ操作を行ってください。

* テレビ側が消音状態で本機が消音状態でないときなど、テレビ用リモコンの消音ボタンを押すたびにテレビと本機が、入れ替わりで消音状態になってしまう場合があります。その場合は、テレビ用リモコンの消音ボタンを長押しすると、テレビと本機の消音状態を同期させることができます。

ラーニング機能について

テレビのリモコンの各ボタンが発する信号で、特定の動作をするように本機を設定できます。

* テレビの操作に影響がないボタンを選んで設定されることをおすすめします。また、テレビのリモコンによってはリモコンの信号を本機側で受信できないときがあります。

例）テレビのリモコンで本機の**ON/STANDBY** を操作するには

1 **本体の ᛒ /テレビ入力切換ボタンを押しながら、⏻ ON/STANDBYボタンを約3秒間長押しします。ON/STANDBY LEDが10秒間点滅（橙色）します。**

2 **ON/STANDBY** LED（橙色）が点滅中に、**テレビのリモコンを本機の受光部に向けて、任意のボタンを3 回押します。**
正しく設定されると、**ON/STANDBY** LEDが2回点滅（橙色）します。設定後は、そのボタンで本機の**ON/STANDBY** が操作できるようになります。

ラーニング機能では、本機の次の機能をテレビのリモコンで操作できるようになります。
上記の手順1 の ⏻ **ON/STANDBY**ボタンの代わりに以下のボタンを長押ししてください。
- VOLUME ＋：⊕
- VOLUME －：⊖
- MUTING：⊕と⊖
- INPUT：⏻ **ON/STANDBY**ボタンと⊕
- SOUND MODE：⏻ **ON/STANDBY**ボタンと⊖

誤動作を防ぐには：
本機には様々なテレビのリモコンがプリプログラム機能用に登録されています。そのため、本機とテレビ以外のリモコン操作で、意図しない機能が働いてしまう可能性があります。
誤動作を防ぐには、テレビリモコン操作を無効にしてください。

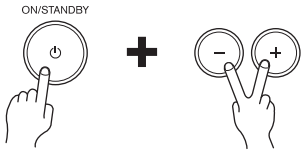
ご注意
- ラーニング機能で音量調節と消音を登録すると、あらかじめ本機に登録（プリプログラム）されているテレビリモコンボタン（音量調節と消音）は無効になります。なお、ラーニング機能で登録した操作を解除するには、本機を初期化（リセット）してください。(→**P.22**)

困ったときは

下記の内容をチェックしてみてください。本機以外の原因も考えられます。接続した機器の取扱説明書もご確認ください。

コントローラーをリセットすることによって問題が解消されることがあります。
修理を依頼される前に、コントローラーをリセットしてみてください。

コントローラーをリセット（初期化）するには、本体の⏻ ON/STANDBYボタンと音量－/＋ボタンを同時に10秒間押し続けます。コントローラーが初期化され、電源がスタンバイ状態に切り替わります。



コントローラーをリセットすると、設定が出荷時の状態に戻ります。

電源に関して

■電源が入らない

電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。–	—
一度電源プラグをコンセントから抜き、10秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。–	—

■電源が途中で切れる

アナログ接続のとき、入力信号のレベルが小さい状態が続くとオートスタンバイ機能が働くことがあります。 オートスタンバイ機能が働くとコントローラーの電源が自動的にスタンバイ状態に切り替わります。	19

■電源を入れ直しても再び切れる

保護回路が働いていることがあります。すぐに電源コードをコンセントから取り外してください。スピーカーケーブルや外部機器が正しく接続されているか確認し、電源コードが接続されていない状態でコントローラーを 1 時間以上放置してください。その後、電源コードを接続し、コントローラーの電源を入れてください。それでも電源が切れる場合は、電源コードをコンセントから取り外し、修理窓口までご連絡ください。	14

警告
コントローラーから煙、異臭や異音が発生している場合は、すぐに電源コードをコンセントから取り外し、修理窓口までご連絡ください。

音に関して

■音が出ない（または極端に小さい）

音声ケーブルのプラグが奥までしっかり差し込まれているか確認してください。	15
テレビ入力が正しく接続されているか確認してください。	15
スピーカーケーブルの極性が正しいか、またワイヤーの芯線が各スピーカー端子の金属部にしっかりと接触しているか確認してください。	14
スピーカーケーブルのワイヤーがショート（別のワイヤーと接触）していないか確認してください。	14
ON/STANDBY LED が白色で点滅している場合は、消音が働いています。消音を解除するには、リモコンの🔇ボタンを押すか、コントローラー本体の音量－/＋ボタンを同時に押してください。	18
各ケーブルが折れ曲がったりねじれたりして破損していないか確認してください。	－

■サブウーファーから音が出ない

コントローラーとサブウーファーのあいだに障害物がないか確認してください。	－
サブウーファーのリンク LED が点灯しているか確認してください。LED が点滅している場合はペアリングをしてください。	24

■ノイズが出る

音声ケーブルを別のケーブル（電源コード、スピーカーケーブルなど）と束ねていると音声信号が劣化する場合があります。音声ケーブルはほかのケーブルから遠ざけてください。	－
音声ケーブルが干渉を受けています。音声ケーブルの位置を変えてください。	－

リモコンに関して

■リモコンが働かない

電池の極性（＋、－）が、表示どおりに正しく入っているかを確認してください。	8
リモコンと本機との距離が離れすぎていないか、リモコン受光部との間に障害物がないかを確認してください。	8
本機のリモコン受光部に強い光（直射日光やインバータ式蛍光灯）が当たっていないか確認してください。	－
ご購入後初めてリモコンを使用するときにリモコンが動作しなかったり、長期間使用していないと、電池が不活性化してリモコンが動作しないことがあります。以下の方法を試してください。 • リモコンのVOLUME－ボタンをしばらく（10 秒以上）押し続けます。（数回くり返してみてください） • ボタン電池を一度はずし、乾いた布でボタン電池を拭いたあと、再び入れます。	－

■テレビリモコンでコントローラーとテレビを操作できない

コントローラーが壁に取り付けられていて、テレビから離れすぎていないか確認してください。	11
お使いのテレビリモコンがあらかじめコントローラーに登録されているリモコンコードに対応していない可能性があります。テレビリモコンのボタンを操作しても **ON/STANDBY** LED が点滅 (白色) しない場合は、本機のリモコンを使用するか、テレビリモコンコードをコントローラーに登録してください。テレビリモコンコードをコントローラーに登録しても、テレビリモコンがはたらかない場合は、該当リモコンがコントローラーと互換性がない可能性があります。その場合は、本機のリモコンを使用してください。	—

■テレビリモコン操作時にコントローラーの音量や消音が操作されてしまう

一部のテレビリモコンでは、音量や消音に関係ないボタンを押したときに、コントローラーの音量や消音が操作されてしまうことあります（例：数字 0 ボタンを押したときに音量が上がる）。このような誤作動を回避するには、テレビリモコンの音量ボタンおよび消音ボタンの信号をコントローラーに登録してください。またはテレビリモコン操作を無効にしてください。	21

その他

■コントローラーとサブウーファーのペアリング

ペアリングを開始する前に、コントローラーの電源を入れてください。

1 **サブウーファー後面のLINKボタンを5秒間押し続ける。**
LINK LEDの点滅速度が変わります。

2 **コントローラーの⏻ ON/STANDBYボタンをON/STANDBY LEDが点滅するまで（3秒間）押し続ける。**
コントローラーとサブウーファーのペアリングが始まります。ペアリングが完了すると、**ON/STANDBY** LEDが白色で2回点滅します。

ヒント

- コントローラーの電源を切る（またはスタンバイ状態にする）と、30秒以内にサブウーファーもスタンバイ状態になります。コントローラーの電源が入ると、サブウーファーの電源も自動的に入り、接続が確立されます。

ご注意

- 通信環境によっては、再生中に音が出なくなったり飛んだりすることがありますが故障ではありません。コントローラーやサブウーファーの位置や向きを変更することで改善される場合があります。
- コントローラーとサブウーファーが離れすぎていると、通信が不安定になることがあります。10m以内に設置してください。
- コントローラーとサブウーファーのあいだに障害物（金属製のドア、コンクリート製の壁、アルミホイルを含む絶縁材など）があると、通信ができなかったり音が出なくなったりすることがあります。このような場合は、コントローラーとサブウーファーのあいだにある障害物を取り除いてください。
- コントローラーとサブウーファーは同梱されているものをご使用ください。これ以外の機器との組み合わせでは使用できません。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音やノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒以上待ってからあらためて電源プラグを差し込んでください。

電源プラグをコンセントから取り外す前に、コントローラーの電源をスタンバイ状態に切り替えてください。

音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

主な仕様

コントローラー（LAP-301）

定格出力 1ch × 20W（4Ω、1kHz、1ch 駆動時）
実用最大出力 1ch × 22W（4Ω、1kHz、1ch 駆動時、JEITA）
総合ひずみ率（THD + N）
0.8%（定格出力時）
0.2%（1kHz、1W）
ダンピングファクター
29（フロント、1kHz、8Ω）
周波数特性 50Hz ～ 20kHz/ + 3dB、− 3dB（DIGITAL）
スピーカー適応インピーダンス
4Ω ～ 8Ω
電源・電圧 AC100 ～ 240V、50/60Hz
消費電力 23W
待機時電力 0.5W
最大外形寸法 187（幅）× 32（高さ）× 120（奥行）mm
質量 0.3kg

■音声入力

デジタル 光× 1、同軸× 1
アナログステレオ
φ 3.5mm ミニ
Bluetooth バージョン：2.1 + EDR
プロファイル：A2DP GAVDP

■音声出力

スピーカー出力 SPEAKER OUT

フロントスピーカー（SLM-301）

型式 フルレンジ密閉型
インピーダンス 4Ω
最大入力 20W
定格感度レベル 86dB/W/m
定格周波数範囲 200Hz ～ 20kHz
キャビネット内容積
0.6 リットル
最大外形寸法 169（幅）× 78（高さ）× 108（奥行）mm
（グリルネット、ターミナル突起部含む）
質量 0.7kg
使用スピーカー 6.5cm コーン
ターミナル スプリング式
その他 非防磁設計

サブウーファー（SLW-301）

型式 バスレフ型
実用最大出力 50W（JEITA）
再生周波数帯域 40Hz ～ 300Hz
キャビネット内容積
11.5 リットル
最大外形寸法 261（幅）× 337（高さ）× 269（奥行）mm
質量 5.8kg
使用スピーカー 16cm コーン
電源・電圧 AC100V、50/60Hz
消費電力 20W
その他 非防磁設計
オートスタンバイ機能

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は
保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となります。長期保証期間内の製品は、店頭への修理品持込みをお願いいたします。

■ お電話による故障判定と、修理受付け

※意外な操作ミスが故障と思われています。お問い合わせの前に取扱説明書をもう一度お調べください。
また弊社ホームページサポート情報にもトラブル解決のFAQを掲載していますので、ご参考ください。

▸ オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555

（受付時間:10:00～18:00 土·日·祝日および弊社で定める休業日を除きます）

※製品操作のご案内、リモコン等付属パーツのご要望、その他ご不明な点についても受け付けております。
※スムーズな対応のため、お問い合わせの前に以下の情報をお調べください。
・製品の型番·接続している他機器·できるだけ詳しい不具合状況
・ご購入店名·ご購入年月日

■ メールによる修理お申込み

▸ http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
からお申込みいただけます。

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

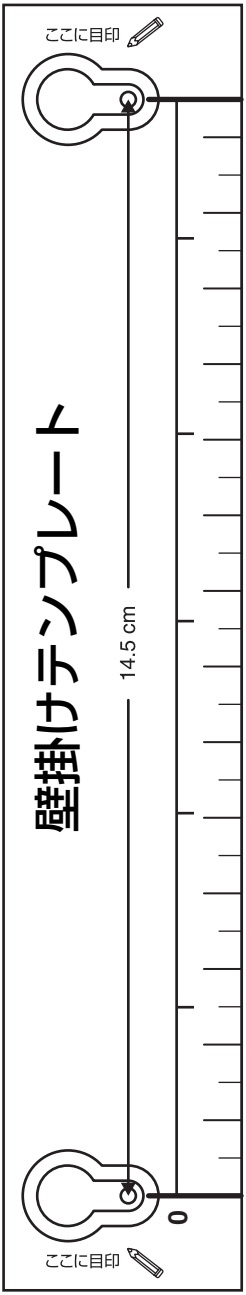
下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。
▸ http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm

保証書について
保証書の記載事項をご確認ください。また、所定事項をご記入いただき大切に保管してください。保証期間内に万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、上記相談窓口にご相談ください。

保証期間終了後の修理について
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大8年間保有しています。保有期間経過後でも故障箇所によっては、修理可能の場合がありますのでご相談ください。

LAP-301を壁に取り付ける際にご利用ください（→**P.11**）



ONKYO

オンキヨー株式会社
〒541-0041　大阪市中央区北浜二丁目２番22号 北浜中央ビル

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

I1409-1

SN 29401872

(C) Copyright 2014 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

* 2 9 4 0 1 8 7 2 *